

## 緑の相談コーナーだより

NO. 323 2012. 5. 1発行

岩見沢市志文町 794 番地

いわみざわ室内公園「色彩館」

### 身近な樹木 “ウコギ” (五加木)

#### ～新芽は春の味として喜ばれる低木～

ウコギは、別名ヒメウコギともいい、ウコギ科の落葉小低木で、もともとは中国原産の樹木です。古くから、薬用および食用として日本に渡来したもので、日本各地の庭や田畑の縁などに生け垣などとして植えられ、利用されてきました。東北地方などでは野生化したものも山野でよくみかけます。茎は群生して多くの短枝をだし、高さは1mほどになります。茎や枝のところどころに、細いトゲがありますが、若葉はいかにもみずみずしく、美しいものがあります。初夏に密生した葉の間から柄を伸ばし、先端に黄緑色の花をつけます。雌雄異株とされますが、日本には純雄株はないといわれます。なお、北海道、本州、九州の冷温帯や暖温帯には近縁種のヤマウコギ（オニウコギ）が自生しておりますが、ウコギとは花梗の長さとおとげが多いことで区別されます。ヤマウコギよりもウコギは花梗が長く、花序が葉の外に出ますが、ヤマウコギは花序を含めても葉の中に入っています。このほか、わが国では北海道のみに産するエゾウコギがありますが、この種の花梗は今年伸びた枝の先につくのに対し、ヤマウコギは前年の短枝にだけ花梗をつけるので、区別することができます。

ウコギの名前の由来ですが、ウコギは、漢名の「五加」の唐音ウコに、日本語の「木」がつけられたものといわれます。なお、古名は「むこぎ」ともいわれました。

栽培は実生によりよく繁殖します。花は5月に開き、果実は熟すと黒色になりますので、通常とりまきします。日当たりのよい適潤地を好み、肥沃な堆積土壌で良好な生育をします。春の若芽はほろ苦く、よい香りで、あえ物やおひたし、五加木飯として食べられます。また、葉をあぶって五加木茶としても楽しまれています。



Acanthopanax Sieboldianum MAK.  
ヒメウコギ

材質と用途ですが、辺材は灰黄色で心材は灰褐色なのでその区別は不明瞭です。ほぼ環孔材で、材の気乾比重は 0.8 程度です。小径木で樹形も悪いことから、材の用途はほとんどないのが実態です。一方、根の皮は「五加皮」と呼ばれ、強壯漢方薬として有名で、「五加皮酒」としても飲まれます。漢方薬「五加皮」は早春にウコギの根を掘り、皮を刻んで乾燥したもので、4-メトキシサリチルアルデヒド、パルミチン酸、アラキシン酸、リノール酸などのグリセライトを含み、強壯や鎮痛に煎服します。中国の「五加皮酒」は有名ですが、低血圧、慢性リュウマチ、更年期障害、不眠症などに適用されます。



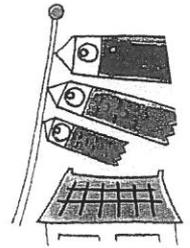
おしろいをつければ湯女や五加木つむ

高浜虚子

はるばると来て五加木茶をもてなさる

高野素十

## 公園だより



### バラ園

記録的な大雪と寒さが長引いたことから、4月はなかなか雪解けが進まず、園芸作業の暦が大幅に遅れてしまった感がありますが、やっと岩見沢にも春の訪れを感じさせる5月の空が戻ってきました。今年の4月は、雪害による庭木の枝折れや幹折れなどの事後対策に忙しかったのではと推察いたします。バラ園は来年度のバラサミットに向けて、リニューアルの工事が忙しく進められていますが、秋バラの季節までにはバラの花を觀賞して頂けることでしょう。こんな中で、ハマナスの丘近くでは、岩見沢市の木でもあるキタコブシの花がみごとに咲き誇り、北国の大地に農作業の始まりの合図を告げております。

♥**今月のバラ園からの一口メモ**は、バラ植栽地の土の改良と移植についてです。今までバラが育っていた場所で、バラを抜いて新たに植えようとする時は、全くバラを作っていない所より丁寧に土作りをする必要があります。いや地といって、今まで育っていたバラが、必要な栄養分を吸収し続けたため養分が不足していたり、土の団粒構造が破壊され、有害な有機酸や病原菌が残されていることなどが原因で起こります。そこで、土の改良をして植え替える必要があります。植え穴は直径 50 cm 以上とし、穴にはピートモス、牛糞堆肥などの有機質 20 リットル以上、溶性磷肥 400 g、油かすと骨粉、草木灰を各 300 g 混ぜてすき込みます。土は半分くらい新しいものと取り替えるか、上下を入れ替えて用いましょう。

**室内公園色彩館**では、壁面のツルバラが咲いております。また、四季咲きの木バラも咲いており、岩見沢のオリジナル品種でもあるスカーレット・イワミザワが、芳香を放っております。

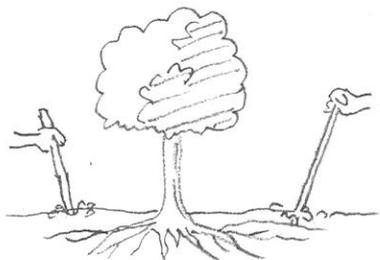
**南国温室**では、パパイアの実が色づいてきました。ランタナやアンスリュウム（オオベニウチワ）の花々が咲き、レモンが稔って、ここは常夏の別世界です。

## 相 談 日 記

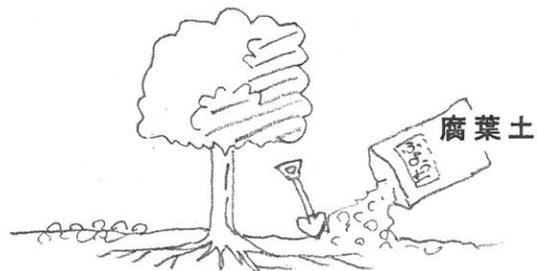
**問** 2年ほど前に植えた庭木が、だんだん葉が黄色くなり、やがて株全体が生気を失って枯れてしまいました。この樹木を取り除こうとしたところ、根が黒っぽく変色し、地際部も変色していました。これは枯れた原因と何か関係があるのでしょうか？また、このようにならないようにする予防法や治療法があれば知りたいのですが。

**答** 根が変色するのは、病気や害虫、または水のやりすぎや植え替えのときにできた傷などによって、根が腐敗したためです。根が黒褐色になっていたら根腐病、紫色のフェルトのような状態になっていたら紫紋羽病、白や灰白色になっていたら白紋羽病にかかっている可能性があります。特に、紫紋羽病が何年にもわたってゆっくり進行していくのに対し、白紋羽病は発生するとあっという間に被害が広がって枯れてしまう傾向があります。また、根が黒く変色し、細かい根がなくなっていたら、根腐れセンチュウのしわざです。1mmくらいの小さな虫なので肉眼では見ることはできませんが、根に寄生して養分を吸い取るため、生育が悪くなり、花が少ししか咲かなくなったり、葉が枯れてきたりします。病原菌やセンチュウは、土中の浅いところに生息するため、ツツジやシャクナゲなど根の浅い樹木は被害にあいやすいので、特に注意しましょう。

**予防と治療法** 苗木を植えたり、樹木を植え替えたりするときは、水はけの良い場所を選び、植え付け前に苗木や土壌を消毒しましょう。根腐れセンチュウの予防にはボルテージ粒剤など殺虫剤を使ったり、マリーゴールドを植えると効果的です。また、被害を避けるため、同じ場所での連作は避けるようにします。病気にかかった樹木は、株ごと取り除いて焼却処分し、周辺の土は消毒します。水や肥料などの管理が悪くて変色した時は、腐敗した根を切り取ってベンレートなどで消毒すると再び根が出てきます。なお、根腐れを防ぐには、樹木のまわりの土を棒でつついたり耕して土中に空気を入れ、根の健康管理に努めましょう。

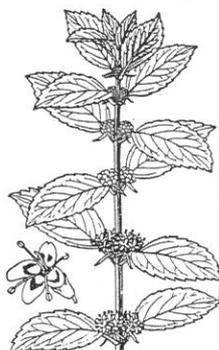


棒などで土をつつく



細20cm土を耕す。

## クールな香りの清涼感が漂う花～ミント類 花言葉 爽快



シソ科ハッカ属の多年生植物で、別名メンタとも呼ばれます。アジア東部に広く分布し、北海道から九州までのやや湿った土地に生育し、時に香料用や薬用として栽培されます。草姿は地味ですが、清涼感のある芳香をもち、夏に咲く花は野草の趣があって可憐です。ミントの名前はローマ神話の中に出てくる地獄の河神の娘で、妖精のミントに由来するといわれます。また、和名のハッカは、漢名薄荷の音読みによります。香りの強いペパーミント、斑入り葉のパイナップルミント、リンゴの香りがするアップルミントなど種類が豊富なので、好みのミントを選んで育てましょう。半日陰から日向まで容易に栽培でき、土質も特に選びません。耐寒性がありますが、夏の加湿や過乾に弱いので、密集した葉の蒸れや病気を防ぐため、茎葉をすかして風通しをよくするように管理しましょう。地下茎がよく伸びて株が広がるので、大鉢で育てるか2～3年おきに株分け更新を行います。

## 4～5月の園芸講座・行事案内

### 市民園芸講座の内容紹介

#### ♣ 小品盆栽・苔玉の楽しみ方

日時 5月12日(土) 13:00～15:00

講師 岩見沢樹石会 吉川 茂 さん 定員 40人 参加料 無料

#### ♣ 楽しい家庭菜園作りⅡ

日時 5月13日(日) 13:00～15:00

講師 園芸研究家 横山 弘 さん 定員 40人 参加料 無料

#### ♣ みんなで楽しむ洋ラン栽培(植え替えのポイント)

日時 5月20日(日) 13:00～15:00

講師 北海道蘭友会理事 中村 純二 さん 定員 40人 参加料 無料

#### ♣ コンテナガーデンの基本

日時 6月10日(日) 13:00～15:00

講師 恵庭サンガーデン 土谷 美紀 さん 定員 40人 参加料 無料



編集・発行 北海道グリーンランド(空知リゾートシティ株式会社)

お問い合わせは 室内公園「色彩館」緑の相談コーナー 25-6111 まで